大正八年四月一日發行　大正八年三月二十八日納本　（毎月一回一日發行）　明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

Y.W.C.A.

基督教女子青年會

四月號

女子青年界目次

第十六巻第四號
大正八年四月號

W. M. Vories and Company, Architects

Hachiman, Omi
and
National Y. M. C. A. Building,
Omotĕ Sarugkucho, Knda, Tokyo.

建築設計監督 ヴォーリズ合名會社

近江八幡町

東京出張所　基督教青年會同盟本部內

東京市神田區表猿樂町

電話本局六二四番

T. YAMAMOTO

EMBROIDERER AND DRESS MAKER

No. 61, Yamashita-cho, Yokohama, Japan

Tel. Honkyoku No. 3993 (Near the Grand and Oriental Hotel)

横濱市山下町六十一番地

絹物商 山本商店

電話本局三九九八番

Embroideries	**Ready Made**
Silk Linens and	Dresses Blouses
Cotton Crapes	and Under Wear

Always on hand at Moderate Prices.

生徒募集

入學願書提出期日

高等女學部第一學年ハ　三月廿五日迄

同第二學年以上
英語專修科
大學部
音樂部　ハ　四月五日迄

入學試驗

高等女學部第一學年ハ四月二日午前八時ヨリ
第二學年以上ハ四月八日午前八時ヨリ

神戸女學院

大阪市外鶴橋町（天王寺勝山通東方）

文部大臣指定

私立プール女學校

◎本校卒業生は明治四十二年四月文部大臣より高等女學校卒業生と同等以上の學力あると指定せられ專門學校（女子大學、女高師、音樂學校等）への無試入學資格を有す◎本科は修業年限五箇年にして學科課程は五年程度高等女學校と同じく且英語と音樂とに特に色あり◎英語科生には一週十三時間、主として三人の英國婦人及邦人二人之を教授す◎教師は英人三人日人十三人、各專門の學識ありて懇切に教授す◎本校は高燥開潤の土地三千坪に壯麗適當なる校舍を新築し、寄宿舍には六十名の生徒を收容し數名の女教師懇切に監督指導す◎規則書入學案内書入用者は郵券貳錢を添へ申込むべし。

「診察毎朝及毎夕　但祭日及日曜之他」

院長診察　月、木、金、午前及木午後六時

林、峯間兩副長は目下當院に在勤

東京市麴町區三番町三十番地（市ヶ谷見附内）

電話六二番
番町五一六番

東洋內科醫院

院長　醫學博士　高田畊安

電話ちがさき二番

神奈川縣茅ヶ崎海濱（從停車場半里）

河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤

院長診察　土曜日午後　入院診後應需

「診察毎朝　但祭日及日曜及土曜之他」

南湖院

女子青年界　第十六巻　四月號　大正八年四月一日發行

會說

復活祭を迎へんとす

河井道子

廣岡御後室が御死去になつてから、二月になりますと大阪女子青年會の一室で挨拶されたので、あゝそうであつたと思ひ、三月十七日阪神電車で深江の里まで出掛けました。深江は住吉に近い別莊地で、後は六角山脈を負び、前には遙に海を見渡し、海岸近くに集まつて居る人家の附近を、阪神電車が二三分毎に走るので、閑靜と便利とを兼ねた土地であります。此里に廣岡家では廣大な土地を有せられ、其に適はしき別莊を建築されつゝあります。現其工事の爲幾臺かの牛車が石や砂利を運んで居るのに會ひました。何にしろ家を崩して路をつけ、奥深き處に家の土臺を据へられるので、地ならしに三年もかゝり、今漸く土臺を置かるゝ所であります。而し構内の入口に既に日本家が建てられてあり、此處より廣岡惠三氏は毎日大阪に出勤さるゝさうであります。この靜で瀟洒な建物の日當りよき客間に、故廣岡淺子夫人の遺骨が黑い布に覆はれてあります。その側に眞白の滿開のマーガレット、溫室咲きのうの花、白の西洋花などが奇麗に置いてあります。黑布の上に小さな十字架が白躑躅で飾られて載せてあるのも何

となく清淨の心地がせられました。東南に面したこの部屋には春の太陽暖かにさし込み、硝子戸を通して向の田圃、其先の村里、その先の海などの眺は故廣岡夫人が嘸喜ばれるだらうと思はれる場所であります。夫人と七年間も寢食を共にせられた千本木道子姉が莞爾に出迎へられ、談話は元より故夫人の事でありました。『私共毎日斯うしてお番をして居ります。之も廣岡御主人が御病氣の爲告別式にも、葬式にも缺席されし故、せめては埋骨式には家族揃つて列席し度いとの思召で、御主人の御全快迄延うしてこの室にお預りしてあるのでございます。」

部屋と云ひ天氣と云ひ、白の花と云ひ、千本木姉の血色よさ清き歌、到底悲しい死と云ふものゝ前にあるとは思ふ事が出來ません。又悲しいと云ふ念も春の陽に解けたやうに感じました。どうしたとてあの立派な人格が消え失せたなど思はれませう。まだ〳〵生きて相變らず他を奬勵し、自身の修養に努力される御姿が眼前に誘ひます。『私は今迄議論では靈魂不滅や復活に就て、本で讀んだり、聖書にある言葉などを照引たりなどして、議論では知つて居りましたが、今は道理でも何でもない只もう靈は生きて居るもの復活はあるものと、心の底に信じられ人は何と云ふて笑ふても構はない、この信仰は動かざるもの、復活はある可きもの、再び奧樣にお目に懸る時かあるものをと云ふ信仰が、日々強くなつて參りました。』とは千本木氏との座談でありました。過去一年間に愛する者、親しき者を失くした人が非常に多いのであります。此等の人に若し死其ものが人生の終局で、復活がなく、暗黑の後に光あり、冬の後に春來り悲しみの中に喜びあり、苦痛の後に感謝あり、試驗と云ふ關所を經て後、休暇と云ふ樂園と成り、困難と戰つて勝利の冠を得る樣に、十字架の苦痛なくば復活の榮光が參りません。私共は罪を悔ゆる苦痛がなければ、眞に赦された、救はれた喜を味ふ事は出來ません。基督の十字架を味はへば味ふ程、復活祭を感ずる事が又多いのであり、また人を

して努力させ、向上させ、理想に向つて進ませる事が多いでせう。この反對に此世限りといふ信仰は人生をして墮落させるものであります。何で進歩の、努力の、人の爲に善をするのと云ふ必要がありませうか、飲食して樂しむと云ふのが當然の事になります。吾等は復活來世を信じます。況して基督は復活の初として敎へ給ふたのでありますから、之を信ずるのは正當の事であります。

支那の言葉で陰陽と申しますが、物の對照は死と甦とを代表したものと思はれます。即ち來世なきものであると思ふたら、その死別の悲しみ、苦しみを如何して堪へられませう。基督者とて死別は悲しいもの否普通の者より死其者に對して慘酷なる考を持つて居ると同時に復活を信じその喜を握つて居ります。聖書は復活に就いてよく敎へ、基督御自身が復活を立證されし事を吾々は信じて居ります。併しながら此處に人があつて云ふには、人生は靈魂不滅であるとか、來世復活があるとか、云ふことは不合理である。然るに之を信ずるなら、證據だてよと申すならば、其人に向ひ、それなら靈魂はないもの、來世、復活はないものと云ふ事の證據を擧げて下さいと反問したら、彼も矢張り返事する事が出來ないのであります、若しどちらも立證出來ないならば、何れを信じたらよいでせう。來世あり復活ありと信仰する方が至當でありませう。

この四月受難週を迎へ又復活祭を迎へるのであります。是等を只敎會の儀式と思はないで、昨年よりかも、今年はより深き敎訓を得て、高き信仰を養ひ度いと思ひます。戰爭や流行性感冒で續々と有名な人、名なき者、親しき人がこの世を去りました事を回顧するにつけ、死と云ふものに打勝つて、主エスの復活の喜びが日本全國、各家庭に滿ち溢れる日の早いことを願ひます。本年の復活祭は世界各國の敎會又は信徒が深い注意を以て守る事と思はれます。私共も其季節を迎へん爲、充分心の準備を致さんと思ひます。

傳道の栞

左記は富士見教會大傳道にての決心者の教育傳道に宛てたるものにて基督教の一般を研究せんとする者には至極簡明なれば乞ふて轉載す

一切のもの神より出づ。彼れキリストにより我儕をして己と和がしめ、且その和がしむる職を我儕に授く。即ち神キリストに在りて世を己と和がしめ、其罪を之に負せず、且和がしむる言を我儕に委ねたまへり。(哥後書五ノ一八・一九)

神の道を傳へ、人を基督のもとに導かんと欲する者の精神は斯くこそあらまほしけれ。

路加傳第十五章は基督教の縮圖とも見らるべし。基督者は神無く望無かりし既往の我、宛も失はれたるものに異ならず、極言すれば死したらんが如き狀態なりしを記憶し、神の限りなき恩寵によりて尋ね索め出されたる有難さに感泣し、總じて路加傳第十五章の如き氣分になることを力め、己が身に引きくらべて、世の未だ信仰の祝福を味ひ知らざる人に同情し、神の心を己が心ともなして、之に道を傳ふることを心懸くべし。

第一 神のこと

引用聖書 行傳一七ノ二二―三一 約翰傳四ノ二四及び其の前後 馬太六ノ五―一四 詩二三 馬太六ノ二五・三四 彼得前五ノ七 路加一五

神は靈にして人格的なり。吾人と意思を通はせ、朋友の間に信ずることのある如く神と人との間に信仰即ち最も高尚なる友道行はる。之を宗教と謂ふ。神は吾人の父なり、吾人の本源、保護者、教育者、命令者、審判者、救者なり。人生は天の父の教場、其の嚴かにして最も懇切なる訓戒の行はるゝ所とす。神は靈なり。靈と眞とを以て「拜するものを要めたまふ。」吾人の信仰と奉仕とを歡び迎へ、祈りを促進し、無論好んで之に耳を傾け、悔改義に移りて

神に歸順するを待ち設けたまふ。斯くて之がためには如何なる犠牲をも厭はせられず。實に天に在す吾人の父にて在すなり。

說き進みて此所に至り主の祈を略說するを便宜とする場合も多からん。

第二 人

引用聖書　馬可一〇ノ一三―一六　馬太一六ノ二六　馬太一二ノ一二　馬太四ノ四　行傳一七ノ二八　哥林多前二ノ七　路加一五　羅馬三ノ二三　七ノ一四以下　詩五一　路加一九ノ一〇　約翰傳三ノ六、七　羅馬八ノ一四

吾人はパンのみにて生きず。功名、富貴、總て物質界の快樂を以て滿足すべきに非ず。本來限りなき世界のものなり。永遠を期待せずんば有らず。然るからに先づ神の國と其の義とを求むるを要す。吾人は神の子として其の家に落ち着き、孝順の道に安んじ、同胞の親を厚ふし、忠實に奉仕し、神を樂むを最上の歡喜となし、其の聖德を身にも他人にも反射せしめて常に之を顯昭し、理想を實現し、神の子たるに相應しき人格を全うするが本分なり。此れ人を神の子と稱する所以なり。而して斯の如きは永遠の關係なり。人生の歸趣、抱負、期待、希望、所志は到底人生五十七十古來稀なる此の世界に限局せらるべきにあらず。實に神國の嗣子なり。

然れども人生の事實は理想の如くにはあらず。子にして奴隷と異ならず。蕩兒其の家を去り、親を忘れ、父を棄てて遠く流離ひ、天を信ぜず、其の命令を奉ぜず、孤兒の如く、放浪者の如く、神なく望なく、主我利己の計に耽り、眼前の利害榮辱にのみ溺れ、窮境に陷り、煩悶遣る所を知らず、甚だ悲慘なる境界に沈淪せり。爲さんと欲する義を行ふこと能はず、爲さざらんと欲する所を行ふ。一人として罪なきはなし。不信仰の陰暗くして、淒愴險惡を極めたり。素此れ池中のものに非ずして妄りに身を池中に投じたるなり。憂苦屈辱何ぞ堪へんや。然れども天父の家には斯の如くならず。「食物餘りあり」て、自由を享け、平和に生活せる傭人數人あり。吾

か飢ゑて死なんとする愚さよ。いざ起ちて父のもとに歸らん。

第三　主耶蘇基督

引用聖書　馬太一六ノ一七、一八　約翰傳一ノ一四、一八
約翰傳三ノ一四―一六　同六ノ五三　馬太二〇ノ二八　同二六ノ二八　加拉太三ノ一三　哥羅西二ノ一四　哥林多後五ノ二一
羅馬八

耶蘇基督の人物を略説し、之に接近せる如き想を抱かしむるを要す。

基督は基督敎の中心、其の實質なり。其の倫理は卓越して世界に冠たり。其の品性高潔にして、少しも罪惡の痕なし。神に接して些の間隙あるを覺えず。其の流れを酌むものは、道念の感覺敏捷、罪惡の煩悶轉た切にして常に赦罪の祈を絶つことなし。然れども基督自身に至りては一點といへども己の罪を告白するの必要なく、未だ赦罪を神に求めたることなし。主は明かに神の子たるの實を具備せり。疑ひもなく神の子なり。然るに吾人は神の子たるべく生れて、其の心を缺き、自ら棄てゝ不信仰不從順の淺間しき狀態に陷りたり。唯だ耶蘇基督のみ能く神の子たり。之を神の獨り子と稱し奉る。此の世界に斯の如き人格の存在せるは最大の奇跡にして、甚だ不可思議なる事實なり。吾人は所謂親の心、子之を知らず、の諺の如く、神の實在をすら疑ひ、少しも其の心を知らざるなり。然れども耶蘇基督は確かに天の父を知り、自ら其の子たりてふ意識鮮かにして、其の愛を徹底的に味ひ、罪ある人類に對する其の苦痛と憐みとに共鳴して、之がため恐懼身を措くに所なきが如くなりき。十字架は基督が罪のために自ら嘗められたる苦痛其が絶頂に達したるものなり。人の罪甚しく、其の惡逆貫盈せるを深刻痛切に感覺し、其の結果慘毒を極めて、甚だ恐るべき禍害の之に伴ふべきを證明し、之を體驗し、死に至りて毫も天を怨みず、妄りに人を咎めず。絶えて自暴自棄に陷らず、全然罪に對する神の審判に一致し、遺なく之を承認し、何所までも天の父の義と愛とを信じ

て疑はず、最後に至るまでひたすら之に頼り縋りて瞬間時も離れざりしなり。自ら罪なくして此の如きは、實に人類に代りて罪と其の苦痛とを身に負擔せられたるなり。吾人若し自己の罪惡につきて基督の如くなるを得ば、如何なる罪をも赦され、青天白日の身となりて、新生命に進むことを得べし。然れども人誰か能く斯の如きを得んや。たゞ吾人の能くする所は主耶蘇基督の十字架の上に於ける至愛と高義とに感激し、彼の苦痛は當に我が受くべき所、彼の赦罪の祈(路加二三ノ三四)は己が當然爲すべくして爲し難き所、彼が罪のために神の前に恐懼堪へ難かりしは、我が理想なれども、自ら之を實現し能はざる所、彼が如く苦み、彼が如く神を信じ、罪惡と苦痛とのなかに在りて彼が如く神を慕ひて、之に憧憬るべきは神の子たるべく造られし我が志たるべき道理なるも、此は罪ある身の企て及ばざる所なり。彼は總ての點に於て吾が能はざる事の實現なり。吾が爲すべきことを爲し了りたるなり。現在の我は虚僞なり。本然の我、眞の我は十字架上の耶蘇基督なり。薄志弱行にして虚僞なる我を拒否し、排棄し、耶蘇基督と其の十字架とに引き著けられ、ひたすら之に歸依し、たゞ其の御影に寄るべく全然之に身を投ず。換言すれば吾人の能くする所は主耶蘇基督と其の十字架とを信ずる事あるのみ。斯く信ずるものは未だ耶蘇基督の如く行ふ能はずといへども、既に其の罪を赦されて、新たなる生命を受け、神の子たるの精神を授けられて、神をアバ父よと呼び奉るに至り、着々耶蘇基督に同化せられて、日々聖域に進むことを得べし。(羅馬書第八章)之を救の始、中、終と謂ふ。斯くて洗禮を説明し、之を奬勵して、教會の事にまで論及す。

第四　信仰生活

救の次第　第一　基督を信じ罪を赦されて神の子たるの意識を抱くものは既に救はれたるなり。提多書三ノ五以弗所二ノ八　第二　然れども罪惡の力未

だ全く消滅せず。吾人之と戰ひ、基督の聖靈に由りて打ち勝ちつゝあり。此の點より觀れば、吾人は常に救はれつゝあるなり。羅馬五ノ一〇　馬太一ノ二一　哥林多前一ノ二八（改譯を看よ）第三　死して基督に見え全く罪を除き去るに至らんとす。希伯來九ノ二八　彼得前一ノ五　羅馬一三ノ一一　此の點よりすれば吾人の救は將來なり。

常に祈るべし。馬太六ノ六　共に祈るべし。馬太一八ノ一九―二〇　基督の名に於て祈るべし。約翰一四ノ一三　斯くて主の祈り等を研究するも可なり。聖書を學び神の聖旨に通ずることを努むべし。主に於る親しき交りを心懸くべし。

基督者は主の證人なり。路加二四ノ四七、四八　哥林多後五ノ一八、一九

奉仕の生活。馬太二〇ノ二六以下　羅馬九ノ一―五　吾人は善き家司たらずんば有るべからず。彼得前四ノ一〇以下

基督の治世の實現せらるゝを平生の志及び努力とすべし。國民生活及び家族生活に於ても。

聖餐式。其の由來と意味とを説明し、此の機會を以て基督に於ける生活を論ず。約翰傳一五　哥林多前一一ノ二三以下

表紙の三角形

二、三、四月號の本誌表紙の三角形は、英米女子青年會の徽章としてあるのを、取つたものであります。今迄は各國で異つた徽章を持つて居ましたが、是よりは何處に行つても一目して女子青年會と云ふことが明かに解かる様同じ徽章を用ふる事は非常に結構な事であります。男子青年會は同じ形の徽章でありますが、靑でなく赤であります。四月中旬頃本部でこの徽章を七寶燒で作つてお望の方にお賣り致します。

來らんとする新文明の根底

鐵道青年會常務理事　益富政助

一、はしがき

歐米の宗教界の社會的活動は最も著しくY・M・C・A及びY・W・C・A其他救世軍等に於て現れた。それらの事は讀者諸君の夙に御承知の事だから申さない。私は基督教的事業の活動ではなく、基督教それ自身の活動といふよりか活躍に就てざつと御話し致して見やう。

二、正義人道と基督教

日本では多くの人々は、此戰爭を以て基督教の微力、基督教の衰退を意味するものであるとして居た。焉んぞ知らん、事實は之と全く正反對で、此戰爭は、實にこれ基督教の微力ではなく、其驚くべき強大なる力、基督教の衰退ではなく基督教の益々旺盛ならんとする傾向を指示したものであつた。

試みに見よ、其掲げられた大旆は何ぞ。曰く正義、曰く人道、曰く自由、而して、これ實に基督教的道義の神髓ではないか。基督教は實に此道義的大理想を四海に布かんために生れたるものである。而して此度の戰ひに於て、彌此大理想が高調せられ、其實現のために努力された。否既に或る程度までは目的を達したのである。

獨逸帝國の崩壞と共に、現はれたる獨逸の民主的政府の第一期宰相たりしマックス公は言つたではないか。『我等は預期の目的を達する事は出來なんだが、預期のものよりも、より以上の勝利を得た。是れは力即ち正義なりとの信念に代へて『正義即ち力也』との正しき信念に立ち歸る事を得た事である。これは獨逸國民に取りて預期せし勝利よりも、もつと大きな勝利である』と。

三、デモクラシーと基督教

ウイルソン大統領、否一億の米國民の凡ては此戰爭を以てデモクラシーの爲の戰爭なりとした。デモク

ラシーとは何か、これ四民平等の理想を政治に徹底せしむるものに外ならぬ。而して四民平等の道義的光りを世に投げ入れたるものは實に基督教である。

ウイルソン大統領は常に叫んで『我は國民の僕也』といふ。彼は此主義精神を何處より學びしか。『我世に來りしは人を使はんためにあらず、人に使はれんがためなり』との基督の御教訓よりである。彼の凡ての政治上の主義方針は、即ち此基督の御一言を以て言ひ表はされ得る。彼嘗て、勞働者大會に臨んで述べて曰ふ『政府は人民の僕にして、人民の主人にはあらず、我等の戰は即ち『政府は人民の主人てふ思想を打破せんがためである』と。人民本位の政治これ彼の政治上の主義である。

四、國際聯盟と基督教

『爾曹互に愛すべし』との教條を信ずる彼は又常に人は人のために生き、國民は亦他の國民のために生存せざるべからざるものであると信じて居る。是に於て國際聯盟の主張も生ぜざるを得ない。國際聯盟は何等彼自身のために必要ではない、否、米國民のために必要でもない。現に多くの米國民はこれに反對して居るではないか。併し彼はこれが成立のための努力を毫もゆるめない。反對が起れば起る程、益々熱心に之を主張する、彼は必ずこれを成立せしめずにはおかぬ。これが成立しなければ米國には歸らぬとまで言つて居る。蓋し人類の幸福、人生の向上のためには世界平和の保障として國際聯盟なかるべからずとは彼の堅き固き信念である。而して此信念又彼の基督教に根したる信念である事は言迄もない。

要するに戰の目的は明確であつた。曰く正義人道自由の擁護。從つて講和會議の主義方針、其據るべき原則、又等しくこゝに存す。而して正義、人道、自由のために講和會議が齎らす處の結果は亦正義と人道と自由の世界でなくてはならぬ。

五、新文明と基督教

今の床次内務大臣は、其著「歐米小感」に於て「文明の根底は確乎たる信念にあり」となし、頻りに歐米諸國の宗教の盛んなる有樣を記して、我國民に信念養成の必要を鼓吹して居られる。而して氏が「文明の根底」と云はれた其文明は、舊文明であつた。が、今や新たに生れんとしつゝある「新文明の根底」も亦實に基督教に在る。何となれば新文明の製造者が熱心なる基督教徒なるが故に。（續）

佛國に於ける婦人觀

歐洲戰爭を親しく巡訪して二月中旬無事に歸朝されし聯合軍慰問使主計監日疋氏の談話なり。

日疋信亮氏談

歐洲に於て最も感じた事は女子教育の普及して居る事、從つて日本婦人よりも頭腦が發達して居る事であつた。これは精神上には日本人だからと云ふて決して外國婦人には劣つて居らぬが、どうも教育の點に於ては一歩讓らざるを得ない。臺所に働く女中にしても知識があるから凡ての點に於て日本のより優れて居る。知識の進歩しない一つは日本の文字が非常に面倒であるのにも原因するであらう。若しこれを假名にでもしたらば大分違ふだらうと思はれる。

私は今度佛國から歸へる途中布哇に居る親戚を訪ねた處が、家庭では日本語を用つて居るにも係らず子供などは日本語よりも英語の方が早く上手に書ける。斯くの如く思想や言語を表はす上に文字が簡易であるから、文字の上に用ふ時間を他に用ふる事が出來るのであらう。

又日本には女子の爲に最高學府が或科のみしか開放されて居らぬが、巴里大學など殊に文科などは百分の八十迄は婦人である。曾て私が禁酒會の演説を聞いた時に、女子の辯護士で非常に雄辯な人に出會つた。又醫科大學などでも多くの女子が研究して居る。斯の如く西洋の婦人は男子と同樣に總ての方面に研究し教育を受けて居る。

男子と共に働く婦人

男子青年會には男子五千人、女子一千人の働人があつて戰時中には目醒しき活動をした。其働は佛國は舊敎であるから傳道と云ふ事よりも主に慰安の方面に働いて居つた。青年會に働く者は奉仕すると云ふ點よりして、結婚せる者も婦人は夫を伴はず、

男子は其夫人を伴ふことなしに單獨の生活に於て奉仕して居つた。この青年會の小屋は諸所にあつて、多くの男子の中に婦人も交り、何百萬の兵士の中に働いて居つて一點の非難も受けて居らぬ。これは如何なる譯かと云ふと三つの原因がある。

一、婦人の信仰
二、婦人の教育
三、社會上に於ける婦人の地位

西洋の婦人の多くは根底に確たる信念があるから、事に當つて動搖される事もなく、善惡に對する正しき批判が出來る丈 素養もあるし、殊に社會上に相當の地位を占めて居るから、男子は婦人に對して充分なる尊敬を拂ひ、婦人も男子をして無禮なる言行を發せしむる餘地を與へぬ位に自重して居るから男女間の交際に於て風敎を害する如きことは決してない。巴里は世界に提供された享樂の地と云はれ、年に少なくも二十億の金が遊客より落ちる處である。日本からも隨分文學美術などに關係して居る專門家が行くが、彼等は其暗黒面のみを見て來て之を紹介されるので、男女の關係なども紊れて居る樣に思はれる人もあらうが、普通の家庭の處女は實に清廉である。これは幼い時から聖母マリヤのことを聽きそれが先天的に腦裏にしみて居るからでもあらうが兎に角品行は方正である。今度日本に歸つて來て、本邦婦人の教育の足らぬと社會上地位の低いのを痛切に感じた。

日本の服裝が惡い

此度の歐洲戰爭に際し西洋婦人が男子の間に這入つて非常に活潑なる活動の出來たのは、教育其他の點のみならず、活動の爲し易い服裝をして居ることも與つて力あるのであるから日本婦人の服裝も此等の點より大に攻究して早く改良の實を擧げたいものである。（文責記者）

轉居

神戸市西町四三

神戸基督教女子青年會

不良少年少女を製造する母

原胤昭氏談

私は三十年間出獄人及少年少女犯罪者の保護に努め、今日迄に親しく世話をした犯罪者は七千人に上つて居ります。而して如何にして斯る犯罪人が出來るものなるかを考へ、十一二歳から二十五歳迄の出獄人二千人の材料を以て研究して見ました所が其犯罪の原因の多くは母の責任に基づいて居る事を知りました。

私の手にかけました少年少女が不良少年或は不良少女となつて犯罪行爲をする迄には必ず一定の徑路階梯を踏んで居ります。其階梯は凡そ次の五階梯となります。

一、哺乳時代
二、幼稚園時代
三、小學時代
四、中學時代
五、高等學校時代

第一、哺乳時代に於ては概して母親の無智と不注意が不良少年少女たるの遠因を作るものであります。畢竟母親の無智と不注意から、子供の病氣などに氣附かず心配しながらもその根底を探らぬ爲終に病的な子供に育上げるのです。私の親しく接した某不良少年は其容貌から見ても知識から察しても、犯罪を行ふやうな子供ではなかつたのですが、深く調べて見ると幼年の時胸の邊を傷した爲に內臟が一方に偏して居つたのを發見し、病的に犯罪が行はれた事を知りました。

第二は幼稚園時代で此時期には母親が手を懸ることが少くなる爲め自然母親と子供との繫か以前よりも離れ從て愛情が薄らいで來るのが不良少年を作る原因となつて居ります。

第三小學時代に於ては母親が子供を本位にするのでなくて、自分の型に嵌めて造り上げやうとすることが原因となつて居ります。

第四は中學時代で犯罪行爲の最上數を占めて居るのは十七歳でありますが、その犯罪は十五歳頃より養成されるので、母親が青年の心理を少しも理解せずに矢張り少年時代の儘に取扱はうとする母親の頑迷な心が原因となつて居ります。

次に突發的な原因としては(一)病氣、(二)友人の誘惑、(三)親子間の誤解と云ふ風に分ける事が出來ます。病氣には鼻と腦の病が多い。子供の身體に關しては最も母親たる者は綿密な注意を要すべきもので、眼が變であるとか手が餘りに大きかつたり、足が大き過ぎたり、胴が長過ぎたり身體の何れかゞ、不平均に發育して居る子供は精神上に於ても缺陷がある可きであるから、斯る子供は醫師に正確なる診斷をして貰ふ必要があります。身體が變調の爲病的犯罪をなす者の多くは遺傳から來るので、この遺傳性を子孫に殘さない樣にすれば自然不良少年少女はなくなる譯であります。又子供を受胎する時の親の境遇は非常に關係するもので、精神狀態の不良又は其當時悲境に陷て居つたとか、或は父親が大酒をしたとか云ふことが惡い遺傳を殘すもので子供に對して氣の毒なるのみならず社會にも害毒を流す譯になります。斯く惡き遺傳もあると同時に良遺傳のあることも記憶せねばなりませぬ。

要するに母親たるものは神に依れる信仰を持ち、靈に由れる愛と同情と、綿密なる注意と、明瞭なる理解を以て子女を教育すべきであります。(箴言二十三章一節より二十六節迄參照)(講演大要)

杣人　　久米春子

つま木こるおのゝひゞきのはつ〳〵に浮世をたどる杣のなりはひ

夕時雨　　同人

夕影のうす日ぬらして風にちる落葉なからに時雨ふるなり

歎

辻村靖子

○風木の歎といふことを題にて

とりみせむ親もなき身と月の中の
　桂はなにゝたをりえつらむ

はくゝみてかへす親なき小鳥は
　むなしき枝にねをのみぞなく

○爭はぬ人の心を

かりそめにゆへるしば垣へだてねば
　隣りのまつもわか庭のまつ

○鶯

霜八度おける笹の葉ささなきし
　うぐひすけさは初音なくなり

○路ににはか雨にあひて

ぬれて行く人としばしの傘やどり
　いかゞはすべきみちのわかれを

曙の光

野邊地天馬

土の床

秋も、もう末になつた時、散り殘つた紅い木の葉が、自分もやがて、摑まつてゐた小枝を離れて、散らなければならないと思つたら、ひどく悲しくなりました。

霜が強くなるたびに、風が烈しくなるにつれて、木の葉は、いよ／＼地に吹き降されるのだと考へられて堪まらなくなりました。そして

「あゝ、私は此處を離れ……、此見晴らしのよい世界から、どこか暗い世界に往かなければならないのかしら、私の友達は何處に往つて終まつたでせう。」と思はず獨語いたしました。

すると小枝は

「葉子さん、貴女は何をそんなに悲しんでゐらつし

やるんですか。」

「おや小枝さん、貴女に聞えましたか、實はね、私もやがて、此處を離れて何處かへ往くのでせうと思へば、悲しくなつて……」

「さうですか、そんな事は何んでもありませんよ、貴女は今日まで、よく此世の使命をお盡しなさいましたから、あの土の床に入つてお休みになるのです其處は決して淋しいところぢやありません。」

「あら……、さうですか。」

「えゝ、その土の床には私共の友達が大勢休んでゐるのです、あのチューリップさんも菫さんも、福壽の坊ちやんも、そこに休んでゐて暖い春の來るのを待つて居ます。蝶子さんも、蜂子さんも、あの滑稽な蛙の太郎君も土の床に眠つてゐます。樂しい春暖い日の光の輝く日を待つてゐます……。」

と小枝は自分のお祖父さんにあたる「根」から聽いたことを木の葉に話してやりました。

木の葉はこれを聽いて非常に安心いたしました。

やがて、秋の日が淡い光を西の山に隱した靜かな夕暮に、誘ひ來る夕風にひかれて、小枝を離れました「左樣なら。」と、土の床を目指した。

イスターの音

復活節の朝、早く時子は、お母さんのお墓のある雜司ヶ谷の墓地にゆきました。

まだ早いので人の影の尠い細い道を辿つて墓地に着いたのは漸く六時半ごろでした、墓地は靜かでした。丁度眠つてゐる樣に、參詣の人もまだ見えません。

墓地に幾千幾百のお墓が列んでゐます、けれども時子の目ざすは唯一墓の小さな石碑。

時子は小さな石碑の前に、大事に持つて來た一束の花を捧げました、お母さんのお好きだつた白百合の花も交つてゐます。

時子のお母さんの亡くなつたのは三年前の秋でした。銀杏の葉が黄ばみそめた頃でした。

「あゝ左樣だつけ、この墓地の大銀杏の黄色い葉がひら／＼と飛んで來て、お母樣のお棺の上に乘つたつけ、そして其まゝ土の中に見えなくなつた、その時、私もその葉の樣に、お母樣と一しよに往きたいと思つた、……あゝ、あの銀杏の葉が幾度黄ばむでも、お母さんは二度と此世へ出ていらしやらないのだ。

あゝお母さん、お母さん、……私はお母樣が戀しう御座います、あなたの御恩は今更らのやうに思はれてなりません。

あなたは、御自分で召上らないでも私に食させ、御自分でお召しにならないでも私には着せて下さいました。

お母さん、私は此世でお目にかゝることは出來ません、けれども、イエス樣がお甦りになつた其力で先きに死んだ聖徒達をお甦へらせなさる時がある、その榮光る日が來る、その時、私もお母さまにお目にかゝるのです。

痩せ細つて、窶れに窶れてお死になつた、いたましいお母樣ではなくて、白き輝ける細衣をお召しになつたお母樣に會へるのです。………

おゝ復活の望よ、清き人達の甦へる日よ、私もイエス樣の御血に清くせられ、お母樣の御許にのぼりませう。」

時子は涙を拭ひながら頭をあげました。

美しい朝日が醒めよと計り東の空に輝き初めました。

◎**ウイルソン氏歸米**　米國大統領ウイルソン氏は二月二十四日午前ボストンに到着し嚴重なる警察の保護を受けて夥しき群衆の喝采裡に上陸せり。

◎**猶太國建設案**　（巴里特電）猶太民族代表者はパレスタインに猶太人の獨立國を建設するの案を講和會議に提出しパレスタインに於て猶太人自治の下に平和なる生活を營むの途を與ふるの必要なるを力說し若し已むを得ずんば最小限度に於てパレスタインに於ける猶太民族のみの地方的生活を許容せん事を要求せり。

ギョン夫人傳（續き）

森田松榮

蓄材、富貴、權達をのみ求めるに忙がしく、その方へ向く樣にその子を仕込んだギオン氏の母が、慈善を好む嫁を嫌ひ、之を遠ざけたのは、其人としては當然のことである。然しギョン夫人の至誠の祈はきかれて、嵐のごとかりし家庭にも、愛が輝き出したのであつたが、その輝は、將に入らんとする夕陽の輝であつた。ギョン氏の死と共に、冷たい夜は歸つてきた。一つ屋根の下に、氷の樣に冷たい姑の心と、寂しく思ひ惱む嫁の心とがあつた。「蔬菜を食ひて、互に愛するは、肥たる牛を食ひて、互に恨むるにまさる」宏壯華麗な邸宅に在り乍ら、內は沙漠の樣な生活をしてゐる人々は、單にギョン家のみではない。

ギョン夫人は、平和の君、和解の君なる聖主が、此世に降り給ふたクリスマスに、靜に姑に向つて機嫌を直して頂きたいと、切に願つたけれど、姑は頑として肯かなかつた。夫人はどうするすべもなかつた。之を見兼ねた友人達は「もう盡す丈はつくしたのだから」といつて、夫人に別居を勸めたけれども、彼女はなほ默して忍んでゐた。すると、それから數週の後、姑の方から、最早一緖にはゐられないと申出した。今はこれまでと思つた夫人は、嚴冬の最中、適當な家をさがすこともろくに出來ずに、三人の稚い愛兒と、一人の乳母と、僅かばかりの調度品を携へて、宏大な邸宅を出た。もとより喪中のことではあり、人の口葉の煩さもあるので、出來る丈人には知らせなかつた、是は一六七七の冬であつた。

轉居後の彼女は、つつましい寡婦ぐらしで、控目な靜かな生活を續けてゐた。情の篤い彼女は、身につまされて、自然と、世の寡婦や孤兒に對する同情の念が一しほ深くなつて、彼等の爲に色々盡した。或時などは、往來に行倒れになつてゐた、悲慘な墮落兵士を、家に運ばせ、子のやうにいたはつてやつたこともあつた。此兵士は十五日彼女の手篤い看護を受けた後、其所で世を去つた。然し、彼女は健康もあまりすぐれず、信仰も活動的な狀態ではなかつたので、際立つたことはなかつた。

彼女は幼時から、自分の敎育が十分でなかつた爲に、不便を感じることが多く、いつも殘念に思つてゐたので、自分の子供には、できる丈完全な敎育を與へ樣とおもひ、殊更女の兒のしつけには、心を用ひた。彼女は子女を敎育するには、先づ自分の敎養が大切と思つたので、ラテン語を學び初めて、修得した。當時信仰の書籍は多くラテン語で書かれてゐたからである。これは後年、彼女の著作の上に、非常な感化を與へた。一家の經營と、三人の子女の敎育と、貧者の訪問、一日の仕事は充分であつたらうに、その中で、新たな外國語を初めて、續けていつたことを思ふと、彼女の恒に止まない向上心と、非凡な精力とが知られる。

この頃、彼女は一人の召使から、信仰上の相談を受けたので、兄モーゼにはかると、コンペ師の意見をおききなさいと勸められた。同師は、敬虔で又才能に秀いでてゐた人なので、夫人もかねがね、尊敬したところであるから、その機會を幸に、自分の信仰狀態をも書き送つて、敎を乞ふたが、同師からの返事は、彼女の悲哀は、彼女の罪、神の罰ではなく彼女を世俗の一切からはなして了ふ爲に、はかり給ふた神の恩寵である、といふのであつた。

一七八〇年七月二十二日、彼女は献身の誓をした紀念日に、いみじい神の恩寵を經驗した。

「この日、われは、恰も完全なる生へ回復され、全く自由にせられたり。われは、もはや心沈まず、

もはや、悲しみの重荷にくづほれざりき、……われば再び、神に會ひまつりぬ。神はいひがたき威嚴と、純潔とのうちに、我へ歸りたまへり。數年前、わが靈の歡喜の時代に有りしものは、慰籍、平和、即ち與へ主よりも、むしろ、賜物なりき。されど今、われは神の聖旨にかくしも合はせられたれば、今は單に慰籍のみならで、慰の神を有ちまつり、單に平和のみならで、平和の神を有ちまつるといふを得べかりき。」

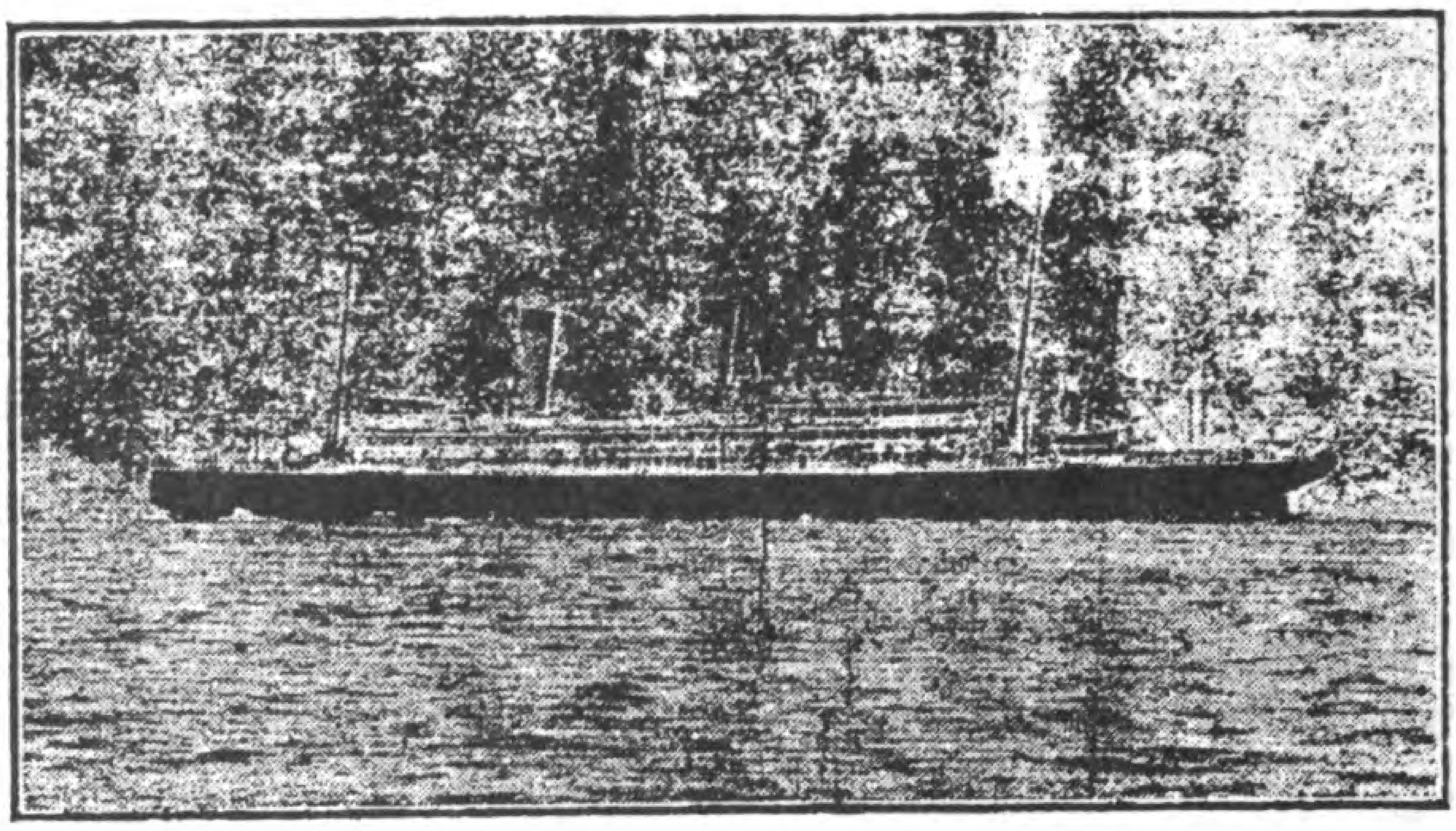
彼女が、「賜物」より目をあげて「與へ主」を見まつり、一切を失つても、與へ主を得て餘あることを知り、十字架の何物なるかを知るがためには、實に六年の索漠、暗膽たる年月を要したのであるが、今や暗雲全く晴れて、永遠の太陽は魂にてり輝き、彼女の悲しみの日は終つたのである。然し、これは、彼女の十字架がなくなつたといふのではない。今や彼女は、罪の十字架上に赦しを求めてゐる罪人ではなくて、救の十字架上に、聖主と偕にあつて、偕に苦しむ聖徒である。全世界を得とも、これなくば甲斐なき、唯一の寶を彼女は得たのである。

彼女の詩の數節を左に拔く。

十字架のよろこび

ながくも我はかなしみに沈みて、
心のこりも、恐れもなく、
愛しまつる聖主の御手に、
わが魂をゆだねまつりぬ。
その聖主こそ、わが涙する目をばぬぐひ、
あるは、流るる涙をば、
嬉しき驚きの微笑に、變へたまふなる。
わが唯一つの所有は聖主の愛のみ。
下なる地に、上なる天に、
わがたくわへば一つだにあらず、
いと篤きねがひをもて、夜に晝に、
聖主に祈り、聖主に乞へども、
われは他に何物をもねぎまつらず。

東洋汽船株式會社



本社 東京市麹町區永樂町一丁目一番地（電話本局四〇八〇、四〇八一、四九六一、一五三一番）

營業所 橫濱市山下町四番（電話四四〇〇、四四〇一、四四〇二、四四〇三、四四〇四番）

出張所 神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング 上海四川路ノース、チャイナ、インシユランス、ビルヂング、マニラ、チャコビルヂング、桑港、マーケット街六二五、マーチャンツ、ナショナル、バンクビルヂング、ホノルヽ、アレキサンダー、ビルヂング

北米航路（桑港、布哇、橫濱、神戸、長崎 上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候溫和、海上平穩なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋ターピン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
日本丸	同	同	一一、〇〇〇噸
波斯丸	同	同	九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、橫濱、ホノルル、桑港 羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、七〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
静洋丸	同	一四、〇〇〇噸

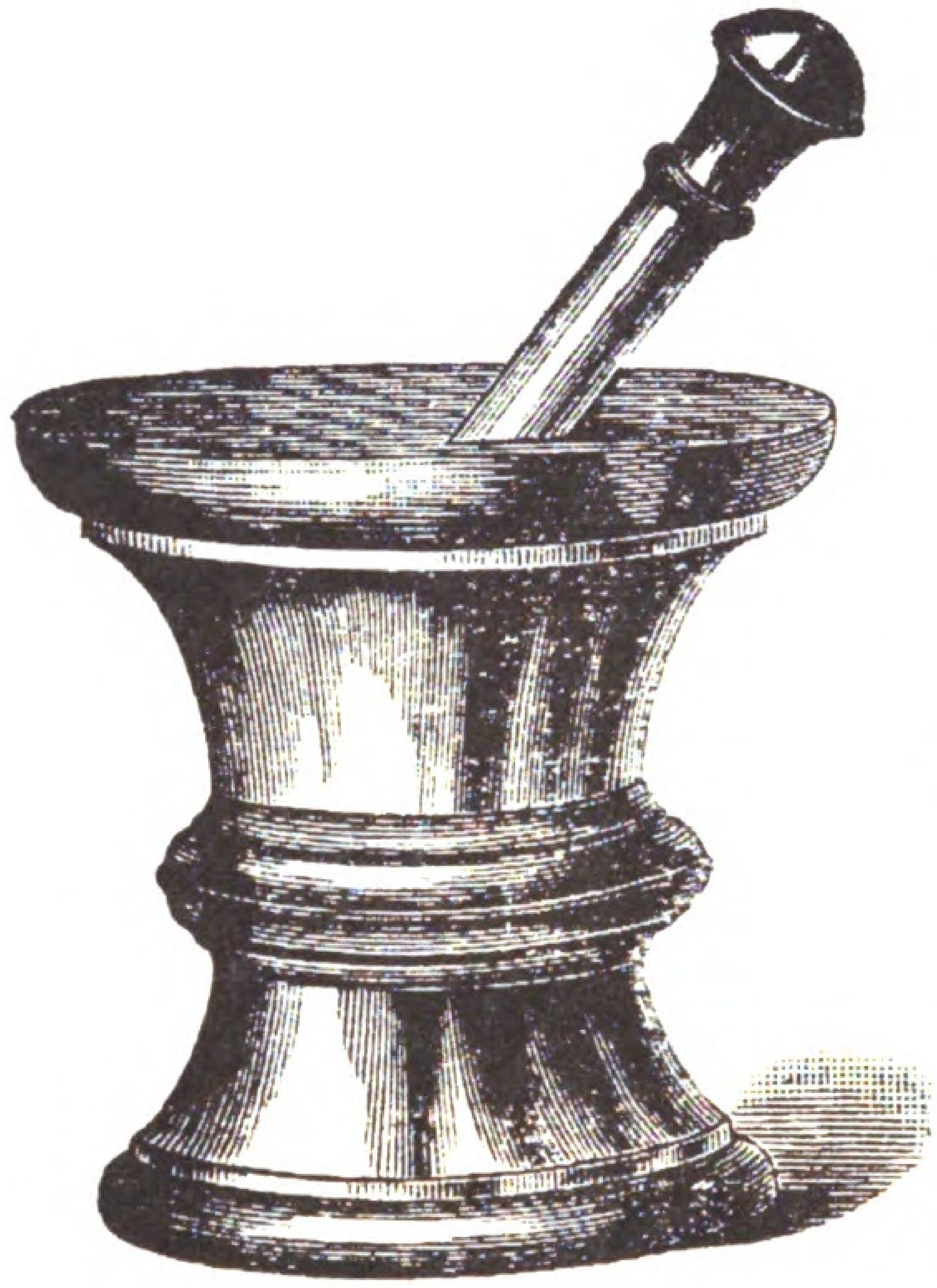
各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

THE HOSPITAL PHARMACY.

GINZA. TOKYO.

TELEPHONE SHIMBASHI 2334

◎歐文和文處方調劑
◎歐米有名賣藥各種
◎舶來化粧品各種
◎醫療器械各種
◎舶來滋養品各種



東京京橋區銀座尾張町一丁目一番地

銀座藥品部

(舊聖路加藥品部)

電話新橋二千三百三十四番

弊店は正確誠實迅速を旨とし凡て責任を以て販賣致し候間何卒御用被仰付度候

寫眞結婚の話

高梨孝子

女史は永く米國に學ばれ先頃マスターオブアーツの稱號を得られて歸朝され四月よりは日本女子大學に教鞭を執らるゝ方であります。

桑港から横濱へ行く自分を乘せた船が米土を離れてから丁度一週間目で布哇へ一寸入港しやうといふ日の朝であつた。曉方から皆起きて甲板に出て「やあ陸が見えた、陸が見えた！」など〻騷いだ位だから八時頃には皆支度が出來て朝飯までもすんで了つた。一二等の檢疫がすんでもう三十分程で上陸が出來るといふので一同そわ〳〵して甲板の上を行きつもどりつして居ると向の方で三等船客の檢疫が終つたと見えると、一人のボーイが大きな札を下の甲板に掲げ「流行病につき三等船客の上陸を禁ず」としてある。これは三等室に大勢の風邪ひきがあつた爲、上陸さして布哇へ傳染されては大變と其筋からの申渡であつた。一週間樂しんで居た布哇の上陸を禁止されて三等の人達が失望の色つたら無かつたいそ〳〵として出て行く一二等の連中を下の甲板の手摺につかまつて羨しさうに眺めて居る顏を見ると餘り氣の毒になつて、自分は其人々の側へ行つて、

「私は今上陸致しますが何かお買物でもありましたら御遠慮なく」と云ふと、

「如何もありがたう御座います、それではすみませんが福神漬の罐詰を二つどうか……何だか食事がまづいんで御座いますから。」などいふお婆さんも居れば、

「私の子供が果物を欲しがつて困ります、布哇へ行つたら買つてやると噺して置きましたので――バナ〻を三十仙程買つて來て戴けましたらどんなに助りますか――」など〻嬉し相にいふ女房もあつた。

面白い一日を布哇で費して出帆間際に船へ歸つて

來た時は暮方であつた。買つて來た品物をそれ〴〵頼んだ人々に渡してやつた、彼等はいづれも甲板の上で待構へて居たのであつた。其中に例のバナヽを頼んだお女房さんが見えないので後で取りに來るだらうと思つて果物を自分の部屋へ持込んで置くと翌日になつても未だ來ない、能く見た顔だが名前を知らぬので自身で三等室へ持つて行つた。

ボーイに導かるゝまゝに行くと下の甲板の端に入口があつて其から船底へ下つて行く、薄暗い梯子段がある、丁度小雨降る日であつたので空氣ぬきの窓は閉されて居て人息のこもつた室の樣な中にはごた〴〵と鞄やらトランクやらが四方を物置然として見せて居る、其側には幾個となく戸板の樣な物が丁度蠶棚の樣に上下に並んで居る。これが三等船客の寢臺なのである、「寢臺」といつても夜計り使用するのでなく、他に行く處がないので起るから寢る迄其處に暮して居るのである。疲れた顔をした勞働者體の男、青い頬をした女、營養不良の樣にやせ衰へた子供やが皆この空ぎれのした、暗い狹い一室に震動の烈しい船底の不快さに堪えられない樣子をして居る其處ら、此處らには咳の聲が聞えて、呻吟して居る人もある、自分の尋ねるお女房さんもその病人の一人であつた。

『どうも誠に相すみません、一昨晩から風邪をひきましたので……ヘエもうこんな所では隣に病人がありますと直ぐ傳染つて了ひますので。』などゝ言つて渡されたバナヽを嬉しげに受取つた。

其夜はいつもの樣に食卓についたが、話頭はつい三等船客の事で持切つた。

『一體まあどんな人達が乘つて居るのでせう。』と言へば、

『まあ大てい加州邊で勞働して久々で妻子を連て日本へ歸る人や、嫁を貰ひに行く人ですね』と毎年の樣に日本と米國を往復する或る貿易商が答へて、

『亞米利加から日本へ行く船にはこんなに種々の人が乘つて居ますが、日本から亞米利加へ行く時には

三等客は大抵寫眞結婚の婦人ですよ。」
食事が濟んで甲板へ出てからも未だ寫眞結婚の話は盛んに續いた。
「船が桑港へ着くとそれはそれは面白う御座いますよ」と船員の一人が切り出して、
「今まで眞黒になつて居た田舍の女達が急に白粉をこてこてと塗り立てゝ滿艦飾でずらつと甲板の上に並ぶのです……何だつて男に嫌はれまいといふのだから一生懸命です。所へ亭主の方がやつて來るんですが誰方だつて顏は知らない人で兩方とも寫眞を手に持つて見比べては相手を探すんです、處が男の方も女の方も中々寫眞通りのは無いんで大抵は三段も四段も實物の方が下つて居るんです、でも女の方は未だ正直ですが、男の方と來たら、呆れるんです、何しろ十年前に撮つた寫眞等を送つて遣るんですから花嫁の方でも落膽するのは當然です。さうかと思ふと半面に大痣のある奴が、横向の寫眞など撮しますとね、それに脊の低いのや色の黒いのなどは解りやしません。尤も女の方だつてさうですが。」
「それで結局如何なるんでせうね。」と一人が横合から口を出せば辯士は語をついで、
「まあ如何か斯うか纒つて行くのです、男は自分から金を出したのだから引取らないと損が行くので大抵なら我慢しますし、女の方は氣が弱いんで男が氣に入らないと言つて上陸せずに歸國するのは實に少いのです、皆泣寢入になつて了ふのです。」
「でも善く嫌な男と結婚する事が出來ますね、旅費を出して貰つたといふ義理から心に染まない人の妻になるのは僅のお金の爲に女の操を賣る樣なものではありませんか。」と自分は腹立だし相に言つた。前の男は笑つて、
「女の操ですつて? 寫眞結婚で行く女なんかに無垢の者は少ないのです、三等室には惡い男が乘込んで居て世なれない女を甘く瞞して疵物にしちまふ例もよくわりました、尤も此頃は船に監督の婦人が乘つて居て風儀を充分取締つて居ますから、そんな間

違は船中ではありませんが、船へ乘る前が危險んです、何しろ三等客は陸上の檢疫がやかましいので船の出る二三週間前から遠方の人は橫濱や神戸長崎に來て居るんです。所が又宿屋が惡い奴等で、客を引止める爲に檢疫がすんでも未だ船室が滿員だといつて船の切符を買つて遣らないので二月も三月も港の宿屋にごろ〳〵して居るのです。その間に寫眞結婚で渡米しやうとする若い女等は所在なしに墮落するのも多いし又同じ宿屋に泊つて居る再渡米の男で亞米利加で散々ごろ付いた上句に日本へ歸つて來て亦何か好い玉を見付けて亞米利加へ歸らうといふ者がいやにハイカラな風をして無智な、無經驗な處女を甘く丸め込んで臺無しにして了ふんです、だから亞米利加へ着く頃にはもう女は擦れつ枯らしになつて居ますよ」。語り終つて彼は得意氣に四方を見廻した

「さう伺へば本當にそんな事をきゝましたよ。」と側に聞いて居た某夫人は同意した。

「私も五年程加州で店を持つて居りましたが其間に寫眞結婚のお嫁さんについて種々の出來事を聞きましたよ。わざ〳〵日本から呼寄せられた計りの花嫁さんが、橫濱を出る前から懇意になつた男と駈落した事もありましたし、又西洋人の宅に働いて居る男が、其主人の自動車へ乘つて、主人の家を自分の物の樣な風して寫眞を撮して送りましたので、內地の方では立派な紳士的生活をして居る一成功者だと思つて虛榮心の强い女がやつて來て見ますと、良人は西洋人の家の料理番で、自分は婚禮早々主人の子守にならなければなりませんので、全然落膽して了つて夫婦中がいつももめて居るのも御座いました。一體男の人が自分が勞働して居る事を隱して曖昧の事を言ひましたり、大きな法螺を吹くのが間違つて居るのです、本當にそんな嘘を眞にうけてわざ〳〵亞米利加へ行く女の方は可愛想で御座いますね。」と女だけに染々言つた。

談話が絕えて船客が去つた後は只獨り甲板で以前友達から聞いた實話を思ひ出した。

それはある可憐な乙女の事であつた、女は小さい時から一所に生立つた自分の戀人が米國へ行つて勉强して居たので、どうか其人にあひたく思つて居る内に、寫眞結婚の話があつたので前後の考もなくそれを承諾して渡米したのであつた、所が來て見ると氣に染まぬ男に身を任せなければならず、戀しい人に廻り合つた時分には、もう自分は人妻となつた身で想のたけを明す事も出來ず、煩悶に煩悶を重ねた結果終に異國の土となつたのであつた。

世の中にはそんな運命に弄ばれて居る女も澤山ある、此の船にも隨分さういふ境遇に堪えられないで破鏡の嘆を胸にいだいて故郷へ泣きに歸る女も彼の船底の三等室の中にもあると聞いて居る。その人達をのせたこの船が横濱へ着いて又亞米利加へ出帆する時には、又幾百人かの無考な、無意義な、そして無邪氣な女や、樂しい西洋式の家庭生活を夢みつゝ空想的な希望を抱いてたゞ一枚の寫眞を見たゞけの男を賴つて渡米する無謀な女を乘せて行く事であらう、大切な娘をさういふ風に手離してやる父母や、一生の大事たる結婚をそんなに輕視する娘は誰が作り出したのだらうか?

夜は益々更けて行つて水の音ばかりが世界に生きて居る。船底の女も眠つて居るであらう……

浦汐住の一節

國井綾子
坂本元子

□御　客　様

「豚の宮殿の様な處で驚きなさるでしようが是非家へも御出下さいまし……それでは水曜日の六時に御待ち致しますから」と河井先生が笑ひながら米國青年會の幹事グリーソン氏やミス、フォンダに云はれる。これで御客様を招待するのが三度目、最初は矯風會の林歌子女史一行と當地信者の婦人方中での主なる脇みさ子夫人、森まさの夫人を御招きした時と、次はミス、フォンダに御一人で御出を願ふた時と。

荒れ果てた臺所の他に二間きりの家、一間は寢室と一間は食堂兼居間兼應接間、其上夜は河井先生の寢室。其處を家主様が大きな體軀を動かして日に幾度となく御通りになる。室の中には毀れかゝつた大テイブル一個に公園用の青色のベンチが二脚あるぎり。

先生は御食堂の用意をして下さる。坂本さんと私は御料理の方を受持つ、先生は椅子が不足なので新工夫を考案され箱の上にスートケースを置き本を積んで夫を毛布で覆ふたりして立派な椅子が出來る。テーブルの兩側には公園ベンチを据ゑ毛布を掛けられ、斯うして食卓は出來た。浦汐は水が高いので私共は日に石油罐に三杯より買はぬからこの様に六人も御客様のある時等は斷水の恐がある。

私共の家にはお釜がないので金盥を二つ合はせてお釜の代用をした。ストーブの工合や露西亞炭使用の不慣の事や水の加減が惡いのでいつも良い御飯を炊いたことがない、此様にお客様でもある時は、マリヤ（前に居た露西亞の女中）が居れば樂であつた

でしようねと坂本さんと話し合ふ。
私は肉買ひに市場へ一寸走つて支那人の店に行き日本語、露語、手眞似混りの言葉で豚肉三斤程買ふた。これで六留餘でした。六時過ぎ六人のお客樣が元氣よく見えた。四人は米國赤十字の方々他は青年會の幹事方であつた。赤十字の方の中には露國の青年も一人見える、坂本さんと私はお給仕しながら頂く。
ブリアンとライスカレとプッデング丈けの御馳走なれど皆樣喜んで召上る、九時半までテーブル圍んで公園ベンチの上にて樂しく話して各自の家へ御歸りになつた。

□米國青年會慰問俱樂部

米國青年會西伯利總幹事フエルプ氏に夕飯の饗應に預りし後同青年會の俱樂部の演藝會に案內される浦鹽本通りスエトランスカヤ街の目拔の場所より海岸へ半丁ほど下る所に舊露國鐵道院大倉庫なりし物を青年會にて借受け三十萬ルーブルの大修繕をなしたる大建物、外部は全部亞鉛張り內部は木造なれど鋸屑詰にしてスチームの設備あり長約四十間餘と察せらるゝ物にして三部に分たる第一部はクラブ第二部はオーデトリアム（劇場聽衆席）第三部は倉庫になつて居る。
俱樂部は階上階下に分かれ階下は娛樂場にて一隅にはピアノの備へあり私共の入つた時は丁度チエック兵の一人か彈奏し數人の兵士は自國の歌を謠て居た一方には郵便局もあれば兩替屋もあり、國許へ手紙を認める紙もペンも具はり、又一隅には蓄音機もあり。少々奥の方には立派な讀書室も出來て居る。米國兵は勿論英國兵、チエック兵、佛國兵等相混じて親しげに笑ひさゝめいて居る。階上は普通のレストラント式に出來て居てお茶、コーヒー、コヽア、サンドウイッチ、ケーク、などを安價に販賣して居る。此の販賣部には一婦人が主任となり手の不足なのは在留米國婦人の特志の方々が手傳に來られる、領事夫人なとは一週に二日間は必ず來て兵士にお茶を注が

れるそうである。
今晩の同港碇泊中の米艦ブルクリン號の水兵達の主催にかゝる黒人舞踏劇といふやうなもので眩ゆき許りの電光の下にはフキリッピン人の米國水兵のオーケストラが派手な曲を奏して居た、そして罪の無い歌や黒人踏りが次から次へ進行された。當夜の入場者凡二千人と注せらる本邦軍艦三笠の水兵も二三百人招待されて居た。青年會では毎夜何か新しい事をして兵士を慰問して居る精神上にも道德的にも大に兵士等の慰藉所であると云はねばならぬ。

□露國青年會館

浦市の人口の半數は支那人である從て支那町があり其不潔さ、通行人の汚さ、家屋の不整列さ實に甚だしき處である。此支那街の眞中に石造の小綺まりした青年會館が聳えて居る通りの不潔さに比べて會館は天國の樣である。昨年六月末に創立されて漸く十月に此會館に引移つた由、現在の幹事は僅か五人なそうな、休憩室はレストラント的でお茶を飲んでる兵士も將棊さして居る兵士も居る主にチエック兵である、次の室は禮拜室で二三百の椅子が整然と並んで居る壁に掛てある聖書も神々しい。
幹事等に案内されて二階に行く、各室の壁の裝飾と云ひ床といひ諸器具と云ひ日光の入り工合等誠に申分なく完備して居る、階上は幹事の事務所と教室とで主に英語を教授して居る。最後に圖書室を見る數多くは無いが皆高價な良い本許りである、英字雜誌の多いのは米國青年會の補助を仰ぎ居ると又一般の寄附とによる、支那街附近に此樣な會館のあるのは兵士に取ては沙漠中の沃地である。

□日曜學校

二月二日浦鹽初めて出席した教會は、石戸義一氏の住宅であつた。三日の間事務室であつた八疊ばかりの室を、日曜日丈は、神を禮拜する會堂として、悦んでお貸し下さるのである。講演者の机は、美しい植木鉢で飾られ、オルガンもあり、腰掛もあつて禮拜堂の設備は、全く整つて居つた。朝八時半から

大人の露語聖書研究と小兒の日曜學校とが開かれる昨年の十一月以降の開港であると承つたが、最早百人に近い生徒で、男子青年會の方が教へて居られた。露國の婦人二人が、日曜日毎に讃美歌の稽古をして下さるが、生徒等には其言葉の意味が解るや否に拘らず熱心に唱ふて居る。日淺くあつてかくも盛大な日曜學校を、見る事が出來るのは、獨り教師の力丈ではなく、日曜日毎に石戸氏をはじめ五六人の大人が、名簿を整理したり、カードを與へたり、一々小兒を席に着せたりして、熱心に日曜學校の爲に盡力して居られるから、かく榮えるのであると思つた。大人が熱心であるために、小兒等は自然と元氣つけられて、寒さをも厭はず、マントで身體を纏ひ、暖かい毛の帽子を被つて、寒さに晒された赤頬した、四五歳から十二三歳の小兒等が、勇み勇んで悅んで集る樣子、末たのもしく思はれて、嬉しかつた。此地は在邦人五千人の內四分の一位は、醜業婦であるといふ至極汚れた所である。此を潔めることは、急務中の急務であると、信者等の常に心を痛める所である、俄に改善も六ケ敷いが「三兒の魂百迄も」と云ふからして、子供を神に導くのが遠くて近い良法であらう。

□米國赤十社病院

私共の住んで居つた側に、米國赤十字社經營の完備した露國避難民の病院がある。金角港に望んで三十間ばかりの三階の莊大な建物で、天井は一丈餘も高く、室內の上部の壁色は綠で、下部は白であつた。一階は男子の病室で二階は婦人と小兒のである。いづれも寢臺の上に、日本の手拭地で作つた美しい被布をかけ、病人の寢衣も敷布も白、尙白衣の看護婦等に看護されて居るは、實に清潔で心地よかつた。水の不自由な所で、かくも凡てを清潔に出來たものである。患者は凡そ百五十人位で、其中には產婦も可愛赤兒も見えた。病床の五六歳位の小兒等が、起き上つて笑顔を以て、私共を迎へてくれたのも愛らしかつた。三階は客間、食堂、世話人等の寢室で

あつた。院内の働き人は主に米國人であつたが。支那人露國人もあり、特に支那人は好評であつた。異國人が集つて共同事業に從事する事は、容易ならないことであらうと思つた。殊に浦鹽の如き國際問題の困難な所に於て人情の調和を損はずして事業の進歩發展を企つることは至難であらう。

□信者婦人會

二月十七日（日曜日）午後二時から、婦人會が脇みさ子姉のお宅に於て開かれた。出席者は二十名ばかりであつたが何れも熱心な方々で、昔の使徒を思ひ起さずには居られなかつた。彼地に於て此等の婦人等は、萬緑叢中紅一點である。

河井先生は「基督教の神に付いて」と云ふ御懇切なるお話を實例を以て話された。互に心を打ち開いて語り合つた。實に樂しい集會で、皆涙を以て悦ばれた。これは當市に於ける初めての、信者婦人會であるので、一ケ月に一回位集つて、お互に神の惠みを證したり、勵まし合つたり、聖書を讀んだり、讃美歌を歌つたり互に助け合つてはとの發議あり、遂に毎月第三の月曜日に開催することゝ定まつた。信者婦人は極少數であるとも、聖書に記されてある如く、若カラシ種子程の信仰があるならば、山を海の中に移すことが出來るとの信仰で、進まれんことを願ふて止まない。

僅かに一ケ月の旅行ではあつたが、浦鹽の各方面を見ることが出來た。國家のために働いて居る軍人の慰問も少しは出來、或は赤面しなければならない醜業婦連の様子も調べ、親なき孤兒院をも訪問したり、又壯厳な音樂で神を禮拜する、ニコライの會堂にも列席することが出來た。此の經驗は私に取つて此上ない寶であると悦んで歸京したのである。

消息（一）

○中央委員會　三月八日中央委員會を神田會館に開く井深委員長俄に御發熱の爲め三民谷子姉議長に擧げられ議事を決す。井深委員長の御全快を祈る。

○河井幹事　三月十一日の夜行にて關西へ御出張同月末まで御滯在の豫定。

支部便り

□東京市部記（自二月二十日至三月十九日）（鈴木トミヱ記）

二月廿六日　當會第一、二、三寄宿舍及田町幹事宅内に設けられて居る日曜學校の教師會を午後四時より開く。此日、日曜學校協會幹事川澄明敏氏の「貧民窟兒童と日曜學校」を聞く。各自、兒童の訓練、管理上に得る處多くして五時半散會した。會する者九名。

廿七日　午前東京ステーションに高橋驛長を訪問し午後、中部管理局庶務課を訪ぬ。兩所に在勤の婦人雇員間に働を開始せんが爲である。高橋驛長曰く「廿四時間働いて一日休を貰ふ彼等に果して貴方の云ふ其會に出席し話を聞く勇氣があるか否かは疑問ぢやが然し行く者があれば私は喜んでやります」また管理局にては「彼等に誤らぬ一生を送らしめんが爲に貴方がたの活働なさるのを永年私は待つて居つた。私は祈つて居つた」との御言葉。兩者より斯くも準備されたる如きお答を得んとは思はなかつた。殊に管理局にて面會を求めた其人が神の僕であらうとは夢にも考へなかつた事である。祈りに答ふる神、願に彌優れる道を備へて下さる神、其神に只感謝の他ない。

廿八日　午前日本橋詰の遞信局調査課に主任を尋ねた。前日と同様の目的で。「私一個の考としては實に喜ぶべき事であると思ふ。然し遞信局では全體で約九百に近い婦人事務員を使用し之に電話交換手を加へたなら、大した人員になるのであるが、是等凡ての中に働くとするならば、本局に人事課長を訪ねられた方が確かに有効に且、何かと便宜を與へらるゝ事であらう。尚當課の婦人等には話をして置く事にしやう」と望に充た答を得て此處を辭した。

午後、萬世橋驛階上に管理局調査課係長を訪ね前同様の事項につき語る。同所には約百五十人の雇員ありと。係長は會に對する理解と同情とを持たれ約一時間の時を種々問答の爲に分たれた。而して事務は四時に終る故其後一時間位ならば一同を集め隨

時講話なすも差支へはない。又彼等の中に望む者があるならば會館に出向く樣に進めて見やう、とのこれ又喜ばしき答に涙ぐましい程嬉しい胸を押へて、ステイームの暖き心地よい室を出た。街路に立ては既に四時過。須田町の通りは花提灯に萬國旗にと賑やかに飾られて居る。何事かと思へば明日は東京驛、神田驛間高架鐵道の開通式の筈、さすれば係長も何かと常にも増して御多忙であられたであらうにと今更ながら心なかりし自分が恥かしかつた。

三月一日　學生部主催の親睦會があつた。遞信局調査課から八人來會す。過日訪問の折に遇ひし人々なり。

三日　午後五時半より委員會を開く。家庭會。女中會の期日を定め、四月より開始を望む夜學部に就き相談す。

六日　東京驛の婦人出札掛四人來館す。曾てカフマン幹事より當會の事を聞き、英語研究を望みてなり。廿四時間の勤務を終へて其疲勞も甚だしきに歸途、當會に學ばんとする熱心實に嬉しい事である。

八日　午後、萬世橋調査課の方なりとて三人の姉妹來館す。「昨日係長のお話を聞きましたので早速に上りました。」「修養し度いと望みましても、如何したならばと迷つてました。」直ちに聖書研究會を開く事に決した。

十日　京驛內管理局に十二時半より廿分の時間を得て庶務課保險部の婦人方に會し働の第一歩に着手す、加藤幹事「失はれたる小羊」につき語らる。

十三日　午後一時半より家庭會あり。來會者計四十三名。原氏の「不良少年を製造する母」との題下に約二時間の御講話を伺つた。卅年間の御研究と御經驗に照して作り爲された幾種類との統計表は尚も深くお話を母人等の腦裏に刻み込む助けとなつた事は確だと思ふ。三時半に一先づ閉會、後質問に過して散會したのは四時五分過ぎであつた。來會者の數に失望した係の者も其會の質に於て何かしら力强き豐さを感じて感謝した。

十六日　讃美禮拜二時より開く。東京驛より三人

萬世橋より三八其他七人。小集であつたが心より讃美して三時半閉會。

十七日 午後一時半より三時半まで女中會を催す晝間の爲か出席者僅に廿四名であつたのは殘念の樣でもあつた。野邊地天馬氏「ナーマン」の話を實に面白く、しかも有益に語らる。聞く者皆、三千年の昔に、さかのぼり、ヨルダン川に敗れし肉の潔を乞ふて其身を浸す大將を忍び、異鄕の空に一人捕はれの小娘の可憐にして尙神に依る雄々しさに自らの心も引きしまるを覺えさせられた。お話終つて一同幼子となり椅子取り、眞似遊び、仕度競爭などと時の經る事の早きを恨めしく思ひながら三時半に散會した。

既定集會

聖書研究會

三井慈善病院にて看護婦の爲
　第二、四、月曜日兩度

當館にて看護婦、會社員の爲
　每水曜日午後六時半より七時半まで

當館にて遞信局、管理局調査課員の爲
　每土曜日午後三時より四時まで

三月の學生部及教育部 （中西司娜記）

學生部 一日(土)午後二時より學生親睦會。此日は學生のみでなく、遞信局より八人の姉妹を迎へ、唱歌、遊戯を致しました。かく異つた方面の姉妹方が、うちとけて親しく樂しむのも美しい光景と感謝せずにはをられませんでした。

四日(火) 苦學せる女學生に、相當なる仕事を與へ學資の一部を補ふ事でも青年會で盡力致し度き希望を持ち、青山女學院、女子學院、成女學校等を訪問し苦學生の樣子を伺ひました。此仕事も遠からず實行される事を祈つてをります。

八日(土) 午後六時半より例月の通り信者教師の集會を致しました。多數の出席者がありましたので種々自由の協議の結果此會を組織し、會長を戸板裁縫女學校の森道子先生に、又他の役員も選定し、有望なる此會の土臺を据え八時閉會致しました。

二月上旬金森氏の大演說會に出席して決心されし寄宿舍生三十二名の爲特に二の新らしき聖書の組

を作りました。

二十一日(金)の夕三寄宿舍生の中で今年卒業なさる方十九人會館に御招きし、御一緒に夕餐を頂き學生生活をはなれて社會にふみ出でんとする此日を祝し、力強きものと致し度考で居ります。

先月末に中華女學生及婦人を招き、聖書の組の方數名の御盡力を得て、隔なき暖き親睦會を致しました。その後此働をもつと廣き、深きものにしたいと祈つてをりますが四月五日(土)美土代町青年會館で在留中華女學生寄宿舍を建つる爲慈善音樂會が開かれますので、私共の學生部でも出來るだけお助致し度き考でをります。

教育部 種々の組は前月と變りなく致してをります、お料理は又新しいディナー講習を始めました。その中には一人の支那の方も見え賑な心地が致します。英語は只今、日本女子大學、東京女子大學、女子英學塾等へ入學試驗を受ける方で特に其準備をする爲習に來られる方が九人ございます。此方々の爲特別の方法をとり出來るだけ致してをります。又今月から東京驛に働かれる方四人が組に加はりました

二十一日午後にはディナー講習を此度終了される方十五名御招きし、親睦會をし青年會の他の方面を御紹介致し度思つてをります。

二十二日には英語の組の方々の親睦會を致し、餘興ゲームの外、此英語會をもつと有意味の物となすべく皆して相談も致すはづでございます。女子青年會の諸級に來られる姉妹方が、肉體の食物の調理法を學び、智的の要求を充たされるのみならず、心の糧をも、此處にて見出される事を心より希つてをります。

□横濱女子青年會の昨今

(上野俊子記)

「忙し過ぎる」と云ふ罪に捕へられ靜祈靜思の時を失ひし事今更の如くおそろしく各自心の駒を鞭打ちて三月を迎へました、集會毎に祝福され、曾てなか

りしほどの盛會の數々を與へられまして前に味ひ得ざりしと思ふ豊かな食物を受け感謝と望に滿ちて居ります。

三月一日平沼元町高女クラブを開き三十名ばかりの卒業せんとする生徒と共に親しく語り時のうつるも忘るゝほどでした。尊き聖句やうるはしき讃美歌主イエスにつらなる友情の物語など彼等の心に深く入りし樣思はれました眞にキリスト敎の空氣にふれ得られぬ青年女學生の爲め光の道をとく開く事は青年會の急務と思ひます。

三月八日午後二時より會員諸姉親睦の主意にて小音樂會を開催いたし會員ならびに其知人を御招きいたしました、ミスオルチンの獨唱ミスターキャンベル及び近藤夫人の獨唱ピアノソロ蓄音機のうるはしきレコード等いづれも妙にしてゆかしく堂に溢るゝ聽衆の心をきよき世界に誘ひ出し日々の煩雜な生活の重荷を輕くするに充分で御座いました。「うるはしき音樂は道ふみ迷ふ青年の唯一の燈火」とか、げになど語りつゝ散會さるゝ多くの方々を送りました時かつてなき盛會を感謝すると共に「絶えず祈るべし」の御聲が強くひゞきました。

三月十七日　米國女子青年會本部より派遣されし委員のお一人にお願して小講演會を開きました、集ひし者二十名。

敎育部ミスオルチンのピアノ聲樂科は大入りで御座います西洋料理の組速記英語の各組は新しき方々を迎へよろこび居りますタイプライターも近くに始めます六七人の申込を受けて居ります。

歡迎晩餐會

たちまち月の影朧ろな十七日の夕はるばる米國本部より使はされた四名御婦人の歡迎會を催したのである。愛らしい桃花と香ゆかしきフリジアとは平和の春らしい氣分を場内に漲らして居た。午後七時會長室原夫人の感謝の祈禱のもとに一同共に晩餐を喫した。後客の一人が「米國の女子及び女子青年會の働」につきての內容豊かな講話について他の一人は

米國婦人の戰時に於ける戰地のめざましき活動振りを熱心に語られた。米國女子青年會の完備した建物から其中になさる丶種々の事業迄恰かも見ゆる樣に伺つた時實に美しくまた我等の働のあまりに微々たる事を辱しく思はずに居られなかつた。いかに創立の年若くとも祈に伴ふ一致と努力さへあらば進歩は見らる丶ものと一層の元氣を與へられたのである。たとへ國はちがひ言葉はかはるとも神に於て一つである。同じい手に抱かれた姉妹であるまいか。餘りに我等は平和の夢をたどつて居る。外國の姉上方の助力も確かに必要であらうが然し努力して作出してゆかねば何事も爲し得られぬのである。努力しやう、絶えず祈らう、そして神の最も喜び給ふ愛の働きをもつともつと世の多くの人々に爲さねばならぬ。と褐色の燈笠を通して輝いた電光の下に一同は深く心に誓つたのである。ミスオルチンの美しい歌の詞。「主よ明日とその必要のために我は祈らじ。我を罪の汚より守り給へ、唯この一日を。我をして勤めて働き正しく祈らしめ給へ。我をして言葉と行に親切ならしめ給へ。唯この一日を。我をして我が意を爲すに遲く、聖旨に從ふことに速かならしめ給へ。」は尚我等の心の眼を開き行く道の光を示したのである。妙なるしらべに親睦の花は一時に開かれ會場は感興に滿ちた。愛のこの團欒をいつまでもと出席されし四十名の諸姉は堪能なイングリッシユを今こそと時の過ぐるも忘れてあやつられしは愉快であつた再びかゝる盛會をと祈りつゝ樂しき御旅行を祈りつ丶グランドホテルに御送りしたのは十時であつた。

□東洋英和女學校青年會の活動

大正七年二月より八年二月迄

一、收入の部

一、販賣部　賣上高合計一千百五十二圓四十七錢五厘。純益總額百四十八圓三十七錢五厘

二、仕事部　大正七年暑中休暇に試みしタラントマネーにて得し純益拾參圓拾七錢。バザー純益金百四圓八拾九錢

三、社交部　誕生日箱より四圓二拾錢
四、其　他　寄附會費集會等によりて得し總額金
　百參拾四圓拾七錢五厘

一、支出の部

一、外村氏傳道義會へ毎月一圓づゝ合計拾貳圓
二、一年間に於ける寄附金總額
　合計金貳百參拾六圓
三、大正七年七月修養會に送りし代員共費用
　合計金五拾貳圓九拾壹錢
四、其他一年間の費用
　合計金七拾貳圓六拾錢五厘
五、支出總額　合計金參百六拾壹圓五拾壹錢五厘

一、矯風部　にては六月花トラクトを持ちて病院を見舞たり。集會五回
一、祈禱部　集會五回
一、社交部　歡迎會誕生日會

二月二十六日役員を改選

會長	田邊芳子	副會長兼矯風部長	本多靜子
書記	今村輝子	會計	大貫キミ
傳道部長	鶴田竹子	社會部長	星野百合子
販賣部長	君塚茂子	仕事部長	佐竹俊子

□宮城女學校青年會よりの書翰

先般仙臺大火ありし際本部より諸學校に對し御見舞狀差出し候處宮城女學校より左の御返事ありし故その全文を掲げ候。

昨日は御親切にも御見舞狀下され誠に有難く御禮申上げ候何しろ風も激しき事とて學校寄宿舍に幾度も飛びうつり一時は全く火中にありて危險に候ひしも多くの犧牲者によりて幸に消し止められあり恐ろしき火災より救はれ申候へば御安心下され度候。今度の火災により內外に幾多の生た經驗を與へ給ひし御神に謝し居り候私共の救はれしは眞に奇蹟と申すべき事にて御神の愛の如何に廣きかを衷心より知り申し候私共いと少さき者にも御國の爲に何かしら働かせ給ふ御神に感謝すると共に親しき心もて增々御神に近づくべく覺悟致し申候當青年會にては應分の寄附を東北學院の再建費に差し上げ得る位置に置かれしをお喜び下され度候私共は斯く幸な

るを喜び居り候へども主義を同じうして立てる東北學院は終に大火より免れ能はず實に殘念至極にて候あの壯麗なる校舍を失しシュネーダー博士始め數多の生徒の事を思ふ時誠にお氣の毒に候併し御喜び下され度候彼等は物質的の凡てを失ふにまさるより以上の神につける何物かを得しを信ずる時に悲しみの中にも喜び居り申候必ず彼等は福音を羞とせざる信者として世に立ち得べき事を確信致し居り候建築物の倒れんとするや昔の羅馬の市街の滅びしその光景がまざ〳〵目に誘び申候今は只殘りし煉瓦に僅かに名殘を留め申候夜毎に燒跡に來りて祈り且讃美を聞く時に私共は一層悲想の感にうたれ只々彼等の上に幸多く新校舍再建の一日も早からん事を祈るのみにて候

消　息　（二）

○ミス、アダムス　四月中にミス、アダムス御來朝の筈。同姉は紐育幹事養成所にて聖書の教授なり、著書中「メサヤの心理」「永遠に不變の事實」は良書たるべし。

○米國より四名の委員　米國女子青年會より日本婦人の運動を視察の爲め一行四名の委員來朝三ヶ月滯在の豫定なり。

○ミス、ページ　東京青年會の總幹事ミス、ページは四月二十二日歸朝の筈。

○デューエー博士　米國哲學博士デューエー氏は夫人と共に來朝目下新渡戸博士邸に御滯在中三日十七日富士見教會にて民本主義の道德的意義と云ふ題にて講演ありたり。

○高梨孝子姉　米國スタンホード大學、シカゴ大學を卒業され先般歸朝せられたり。

○星野愛子姉　女子英學塾教授星野愛子姉は目下米國ニロンビア大學の日本語學の講座を受持たるゝ由。

○成瀨仁藏氏　日本女子大學校長成瀨仁藏氏は豫て御病氣の處三月四日御永眠。

○湯田きみの姉　昨今日本郵船會社にタイピストとして御勤務の由。

○田川大吉郎氏　三月十七日正午横濱出帆の春洋丸にて尾崎行雄氏と共に御渡米。

○仙臺火災　三月日仙臺大火にて宮城女學校は類燒を免れたるも東北學院の一部は燒失せり同校にては再築の爲寄附金募集中なり。

○神戸女學院　同校專門部は女學院大學と改稱さる。

○太田秀子姉母堂　昨暮より御病氣なりしが御看護の甲斐なく三月十四日御永眠。

○新渡戸博士　二月四日出帆のコレア丸にて後藤男爵と共に御渡米。

○富澤愛子　絹脇俊熈氏と御結婚。大阪府下濱寺石神病院構內に御住居。

○横山きち子　先般來御病氣にて三井病院に入院御加養の處追々快方に向はるゝ由御今後の御攝養を祈る。

落穂集

□全國の救濟事業に働ける獻身的婦人　近頃、婦人の救濟事業が大分各所に擴張され從つて獻身的に働く婦人の數も十年以前に比較すれば隨分多くなつてゐますが、就中幼兒保育事業に働いて居る婦人がその最も多數を占めてゐるやうです。　内務省の調査によると「現在、婦人の携はつてゐる感化救濟の事業數は全國總てゞ六百九十三それを内譯しますと、感化院、育兒院、幼兒保育院、養老院、施藥救濟窮民救助、職業紹介、宿泊救護、婦人救濟其他盲啞、貧兒、子守などの救濟でありますが、此うち職業紹介や宿泊救護には、あまり婦人は携はつてゐないやうです。殆んど全部婦人で働らいてゐると云つてもよいのは、保育事業で、東京四谷の二葉保育園、同内藤新宿の二葉保育園、淺草玉姫町の辛亥救災會託兒場、同所玉姫託兒場、下谷萬年町の萬年託兒場、四谷區谷町の鮫橋託兒場、淺草橋場町の同情園、東京府下巣鴨宮下の櫻楓會託兒所、王子町の王子保育園、南葛飾郡吾嬬村の吾嬬保育所、京都丸太町通信愛保育園、大阪市東權現町大阪保育院、同市南高岸町弘濟會保育部、其他各地方にありますがその總てに活動していづれも美事な成績を擧げてゐます。他の救護事業は兎も角として幼兒保育は何うしても婦人の天性に適してゐる故か、婦人に限るやうです。全部の救護事業に働く職員數は目下五千四百廿名ほどありますが、其中三分の一即ち千八百餘名は婦人であります託兒所も近來新に設立せられるものが多く從つて婦人の働く數も漸次增加しつゝある傾向の見えるのは、婦人事業界に取つても喜ばしい現象と思ひます。

（讀賣新聞より）

□神戸女史の光榮　久邇宮良子女王殿下にピアノの御教授申上ぐる神戸絢子女史は、佛蘭西留學を命ぜられ、歸朝後母校東京女子音樂學校に教鞭をとられ、獨逸音樂の系統多き本邦樂壇に佛蘭西ピアニストの第一人者として立たるゝ方です。

□故大山公爵母追悼會　三月二十

日女子英學塾理事たりし故大山捨松夫人の追悼會を催す。御夫人の御在世を偲ぶお寫眞の前に、公爵御夫妻、御令孃井田夫人の御臨席を得て、在校職員生徒、卒業生集ひ哲學博士元田牧師の司會聖書朗讀、讃美歌弔詞等ありて、しめやかに式を終る、檀上に在りし白百合の花は故夫人の淸き面影とも覺えたりき。

□成瀨校長　妻もなく子もなくて一生を女子敎育の爲に捧げられし同校長の御葬儀は三月九日幾百の敎へ子の涙のうちに雜司ヶ谷の墓地に葬らる。畏くも皇后陛下より金壹萬圓の御下賜金ありたり。

□矯風會の活動　林歌子、宮川靜枝、ミス、クラゲツトの三姉は醜業婦問題研究の爲、浦鹽よりハバロスク、ハーピンに至り、朝鮮を經て三月五日歸京せられたり。是より同會にては益々婦人問題につき大に活躍せらるゝなるべし。

三月七日午後七時より、神田美土代町靑年會館にて矯風會主催の下に左記順序に依り講演會開催。

司會者　守屋東

一、西伯利に於ける同胞の狀態　林歌子

一、水源地の淸濁　河井道子

一、矯風會の運動　久布白落實

一、獨唱　大山玉子

來會者の大部分は靑年男子にして彼等の靜肅なる態度及び同情に滿ちたる拍手は、時勢が風俗改良廓淸の必要を證するものと云ふべし。

□婦人矯風會大會　四月一日より四日まで神戶市山本通り神戶女學院講堂にて基督敎婦人矯風會第二十七回大會施行せられる由。

□帶廣木賊原遊廓の表彰　帶廣木賊原遊廓貸座敷業組合の主催を以て廓內娼妓にして大正七年中能く自衞を重じ其筋の訓示を嚴守し無病稼業にいそしみし模範娼妓の表彰式を擧行せり當日受賞の娼妓は九名にして參列娼妓九十三名各樓主及妓夫等なりき。

世には面白き表彰式も
あるものかな

友垣

○

仙臺　原田ことぢ

私共の兄弟の東北學院は類燒にあひました。私の方の寄宿舍にも二度火がつき新校舍へ一度つきましたのに助かりましな。河井先生のお話をなさつたり私に奇麗な講堂と仰せられたのも僅か二時間で灰になつて了ひました。シエネダー校長は實にお氣の毒で堪りませんどうぞ學校を失ひし青年の爲にお祈り下さいまし。

○

岡山　陶山よね

一體國際聯盟なるものは如何なるものでせう。眞實に大きな愛を以て行けば直ぐに解決はつきそうなもの、處が其が中々困難の事で私一個人としても それが出來ません私一個の軍國主義を改めない限り如何にもがいても家庭は平和にならぬ近所は平和にならぬ學校は平和にならぬ 一々惡と成る意のものが多いやうな氣が致します清い高い場所と思ふ所にも大概は極端な思想を抱いて毎日を實に／＼恐しい言葉や罵を以て上を呪ひ社會を呪ひまるで火の上を歩いて居るとてもいひ度い樣な氣分で過去つて居ります私考へて見ますと斯る結果を生むのは十分の原因があります日本はどうしても醒めねばなりませぬ。

○

臺灣　桑原まさ

又々本年河井先生には西伯利にお出かけに相成り病む人貧しき人の爲めよゝ働を遊ばす事を伺ひ誠に誠に嬉しく感謝致し候主の御働の上に加はりて誠によき働となられん事を切に遠方よりお祈り致し居り候私共も力の有らん限り當地の爲め小さきながらも主の御國の爲め働き申す可く候まゝ何とぞお祈の中にお覺え下され度願上げ候。

○

北海道　村岸榮子

今度は西伯利迄ようこそお出かけ下されし御事と深く喜び又感謝致せし事に御座候願はくは彼地の婦女子が眞面目に生活を有意義に送り得るやう同地に女子青年會乃至婦風會の設立を只管に祈つて止まぬ次第に候。本年は昨年にもまして神より特に賜はりし御使命の人としての御本分を十二分にお盡し下さるやう祈り奉り候。

○

京都　井街てる

當地にては林秋子樣クロフォード樣度々お出下されお目にかゝり申候承り候へば四月頃より當地にも女子青年會支部御設立のよし何卒效果の多かれと只管お祈り申上候 尙出來る事なれば充分の働きも致し度くとも存じ申候 二十年前に少しく記憶せし語學の今はみゝずのたわごとゝも聞えなさず六十年の手習にてもぼつ／＼と初め申度とも考へ居り候段々世の進むにつきて追々に必要に迫られ居りたがらも胡麻かし來りし恥かしさ今にて適切に感ずる次第に御座候

○

下關梅光學院　池袋須爲

先日は學生祈禱日の主意書をお送り下され誠に有難くお禮申上候當校毎年二月の學生祈禱會には名士なお招き致してお話を願ひ後にて決心者を集め殊に其人々の爲に力を盡すが例に御座候去年もこの集會の有益ならん事を望み特にこの三月卒業せんとする姉妹にして

未だ信者ならざる人の爲に信者たる同級の者け祈り居り候ひき當日は御病氣中の木間先生を無理にもお願ひ致し「祈」と云ふ題にて承り候我等の祈の足らざりしや又神の御旨の未だその時にあらざりしや決心者を現はに知る事は出來申さず候も神様の先生を通じて敎へ給ひし御言葉の深く〱私共の心を貫き私共の信仰と祈の實に〱足らざる事を感じ涙を以て悔ひ申候口にこそ云はね人の前に立ちこそせざれ共集まりし者の上に或力の與へられし事を各思ひ居り候決して望みなき集會にてはあらざりき愈々祈らんとて心の緒をひきしめ申候我校のみならず萬國の學生の救はれん事は私共一生涯の祈に御座候次の集會には來學期の役員委員の選擧を致す筈にて適當なる人の與へられん事を祈りつゝ準備致居り申候且又會員の勇氣を鼓舞せん爲に女子青年會々歌を作らんとて目下募集中にて候

○

笹尾粂太郎

粛啓　當市大火の際は早速御鄭重なる御見舞を忝うし深謝いたし候幸に火元に遠く風位又安全なりし爲め類燒を免れたる拙家一同は何の恙も無之候間乍憚御放念被下度候さりながらさしもに宏壯なりし我が東北學院中學部校舍並に寄宿舍の一朝にして烏有に歸せしはかへす〲も痛惜の極みに御座候目下再建を策て協心熟議中にも有之候へば將來とも一層御同情と御熱禱とをもつて御加勢被成下度不敢取御答禮旁御願申上候也。

「女子青年界」定價及廣告料

定價郵稅	内地	海外
一部	金十錢	金拾三錢
一年前金	金壹圓	金壹圓四拾錢

廣告料	一回掲載
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓

年極又は回數により割引有

大正七年二月廿六日印刷納本
大正八年三月一日發行

發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督教女子青年會
電話本局五九八番　振替東京二三七二三番

發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子
印刷人　芝區露田和泉町七番地　前川吉次郎
印刷所　右　三成舍


東京銀座
合資會社
山野樂器店
電話 京橋 一〇五二番
二二九八番

Kyoto.

Two new English classes have been started. One is made up of advanced English students with an enrollment of six, and taught by Mrs. Ruth Emerson Hannaford. They are translating short stories from American magazines. The second class is composed of young married women in beginners' English and is taught by Miss Hayashi.

A group of Doshisha day students is meeting at the association residence once a month for Bible class taught by Mrs. Nakamura (formerly Miss Taga) followed by a social time with music, games and tea.

A second group of government school girls are coming to the Association residence now for English hymn singing and a social hour. Mrs. Mikami, and Mrs. Katayama of Miss Tsuda's school are bringing them.

Kobe.

The Kobe association has secured an office in the Adachi building in the centre of the city, near Sannomiya Station. When coming to Kobe get off the train at Sannomiya and not Kobe.

Our night school has started with classes in commercial correspondence and English, meeting Mondays and Thursdays. On Monday night a gymasium class is held; and on Thursday evening we meet together for chapel service.

Three educational lectures have been given, two by Dr. Kinoshita on "Tuberculosis" and "Food," and one by Dr. Furness on "The Universal Interests of Women."

Mrs. Roy Smith has a Bible study class in English with the older business girls, and Rev. Hinowara has a Bible class for younger business girls.

On March 5th, Rev. Sumatsu Kimura spoke to the Committee and Business Girls' Club on the burning earnestness necessary to the finance worker.

Mrs. Otsuka has come from Hiroshima as emigration worker. Work was begun on March 8th and 10th when about 180 women sailing on the Shinyo Maru were met at the examination hall where they are tested for trechona and hook-worm. The privilege of meeting these women was granted by the prefectural officials and examining physicians. As many as we could meet personally were given cards of introduction to Miss Ellis in San Francisco, Cal. Miss Kawai's pamphlet of instructions for use during the voyage was distributed. On Monday a few of the women came to a special meeting held at the same place where American clothes, table setting, baby clothes, etc., were shown, and at the same time simple talk on health and spiritual matters was given.

During the past month Mr. Kawasumi of the National Sunday School Association gave a most helpful talk to the Sunday School teachers of the association.

Recently a social afternoon for Chinese students was given.

Miss Suzuki, city secretary, has made calls during the month at several departments and stations of the Department of Communications; and was very kindly received. At the invitation of the officials of the central station a noon meeting was held and about twenty girls were present. Several of the girls have since come to the association for lessons in English.

A meeting was held for women interested in delinquent children, and Mr. Taneaki Hara, who has a home for ex-prisoners, gave a most helpful talk on the training of children.

Yokohama Association.

We were most fortunate in having Mr. Buchman for three of our noon day meetings, which were attended by school girls, business girls and some church women. Everyone was greatly helped and one definite decision for Christ was made.

An informal concert was given at the association on March 8th for members and friends. Our large reception room was filled. We are greatly indebted to Mr. Campbell, Mrs. Kondo and Miss Weill for the success of the concert.

For the past week and a half the deputation from New York has been visiting the Yokohama association. Two receptions have been given in their honor, one by the foreign community and one by the committee ladies and their friends. They have visited many schools and interviewed several prominent women of the city, and also acquainted themselves with the work of the various missions of the city. A Japanese dinner was given by the Committee ladies in their honor.

Osaka.

One the Day of Prayer for students, Mrs. Jerome Holmes was the speaker for vesper service and told the story of the "Lost Word" by Van Dyke. For the other vesper service of the month Miss Kawai spoke especially to the graduates of the three mission schools. The Association is depending largely for leadership in club work on the graduates of mission schools and is anxious that the girls should at once feel themselves as much a part of the city association as they have of their school organizations.

On March 4th Mr. Misao Takahara, of the Asahi staff, spoke to a group of members and friends on the Paris Conference and Japan.

A new English class for high school girls taught by Miss Fumi Iwasaki was started this month, and a second French class with Mrs. Poulson as teacher.

Miss Kawai came and a special meeting of Board and Committee members was called, and plans for the spring work were made. Miss Kawai attended several other meetings.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(Joshi Seinen Kai)

Vol. XVI. April 1919 No. 4

The regular meeting of the National Committee was held March 8th with 7 committee members, 4 secretaries and 1 guest present.

The Committee decided to write to Dr. Teusler asking that our secretaries, loaned to the American Red Cross in Siberia, return to Japan for Secretaries' Conference which is to be called when Miss Adams arrives in May, and if necessary, the two secretaries will be allowed to go back to Siberia until summer.

Miss Kawai gave a report of her work in Siberia and also read the financial statement in connection with that work. The gifts received in money amounted to nearly Yen 1,000, and thirty boxes of materials were sent to Siberia, and later a wagon full of materials was sent to the Red Cross office in Tokyo.

It was announced that Miss Hawes, Miss Stafford, and Mrs. Walker had arrived in Japan from the Foreign Department of the Y.W.C.A. to study the field and will remain until the middle of June. Miss McKillip, a friend of Miss Hawes is in the party.

Miss West wishes to resign as a member of the National Committee and has suggested Miss London of the Joshi Gakuin to take her place.

The Summer Conference Committee was asked to meet as soon as possible to begin plans for our 1919 conferences.

Miss Mitani, Miss West, Miss Kawai and Miss Kaufman were asked to arrange Miss Adams's program. The same committee with Miss Dunning substituted for Miss Kaufman was asked to revise the student basis of membership, and the student constitution.

A public meeting was held on March 7th at the Tokyo Y.M.C.A. hall, and Miss Hayashi of Osaka and Miss Kawai gave reports on their Siberian trip, emphasizing particularly the purity question. The hall was filled. A similar meeting was held in Osaka March 24th with the same speakers.

Miss Verry and Miss Hori went to the Christian School at Utsunomiya to address the graduating class on March 20th.

Tokyo Association

On the Universal Day of Prayer, February 23rd Bishop Hirai, recently returned from America, spoke to students.

At a meeting of the Christian teachers in Girls' High and Private Schools officers were elected for the ensuing year, and a committee was appointed to arrange for monthly meetings.

整腸常用劑

LACTOSTASE
ラクトスターゼ

本劑は腸內の腐敗醱酵を防ぎ腸內に發生する各種病原菌の繁殖を阻止し且つ之れを死滅せしむる作用あるが故に腸加答兒及び其の他の腸疾患皮膚病及便秘等の豫防治癒の效顯著なり又常に本劑を服用すれば健康を保持增進し長壽の福を得べしとは斯界大家の唱導するところなり

粉末、錠劑、凝乳調製用ラクトスターゼブイヨン等あり、各地藥舖にて販賣す。

▲本劑に關する文献御申越次第進呈す。

內服用粉末十四瓦金八拾錢、二十八瓦金壹圓五拾錢、同錠劑五十錠金五拾錢、ブイヨン六瓦金拾貳錢、

東京室町

三共株式會社

女子青年界第拾六卷第四號（毎月一回一日發行）

大正八年三月二十八日印刷納本　大正八年四月一日發行　明治卅七年五月七日第三種郵便物認可

三越の四月

春季新柄陳列　▼四月一日より……

寄裂見切反物賣出し　▼四月一日より……

新模様圖案陳列　▼四月一日より……

新製洋傘陳列　▼四月一日より……

五月人形陳列會　▼四月五日より五月四日迄

下萠會繪畫展覽會　▼四月廿四日より三十日迄

東京　三越呉服店